

過ちの人生 中国残留孤児2世の悔い

22日(日)



パリ同時テロのため15日のストーリーは休載しました。1週間先送りして22日の紙面に掲載します。

「先生の言う通りには生きられませんでした」。ピッキングによる事務所荒らしで13年の刑期を終えた男性(43)は中学時代の恩師(62)に頭を下げました。1980年代、東京・江戸川区の中学校に通っていた中国残留孤児2世たち。日本語が分からず、貧しかった彼らは日本人生徒による差別やいじめに遭い、抵抗しようと12人のグループを作りました。後に準暴力団に認定される「チャイニーズドラゴン」の原型です。同じ2世がいじめられたという情報があれば仕返しに行きました。ところが皮肉なことに、けんかを通じて知り合った日本人がグループに加わり始め、仲間は仲間を呼んで膨張していきます。「当時は日本人の仲間ができて嬉しかった」と男性は言います。元メンバーの男性と、彼らに真っ当な人生を歩ませようとした恩師の姿を通して、孤児2世のグループがなぜ犯罪集団に転落したのかを考えます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

スーチー氏とミャンマーの未来は

40年以上交流を続けてきた日本人夫妻の思い

夕刊2面特集ワイド 24日(火)



ミャンマーの総選挙で、民主化運動を続けてきたアウンサンスーチー氏=写真=が率いる「国民民主連盟(NLD)」が勝利しました。この勝利によって、半世紀にも及んだ国軍支配に終止符が打たれるかどうか注目が集まっていますが、遠く日本からスーチー氏とミャンマーの未来を見つめている夫妻がいます。元同志社大非常勤講師の大津典子さんと、夫で神戸大名譽教授の定美さんです。英国留学中の1974年に知り合って以来、交流を続けてきた夫妻の思いをうかがいます。

「氷河期世代」は「オヤジ」に拒否反応が強い？

同世代の識者と考える

夕刊2面特集ワイド 25日(水)

1970年代以降、アニメやドラマの中で次第に父親の存在が希薄となり、オヤジの「悲哀」や「哀愁」はテーマにならなくなった——。特集ワイドで先日、そんな記事を掲載したところ、1977年生まれの読者から「自分の世代から見ると『オヤジの悲哀』など、ただ自ら哀れんでいるだけ。その言葉も好きになれない」という反応が寄せられました。1977年生まれは就職で苦労した「氷河期世代」と言われる世代ですが、こうした拒絶反応は世代的なものなのでしょうか。同世代の識者に聞きました。



「女の気持ちをたずねて」

おんなのしんぶん  23日(月)



「くらしナビ」面で連載している「女の気持ち」に投稿した読者を記者が訪ね、その後の様子などを描く人気コーナーです。今回は、大阪編集局の相原洋編集委員が、奈良県生駒市の西紀代子さん(75)を訪ねました。

今年、結婚して50年を迎えた紀代子さん。1988年に脳内出血で倒れた正之さん(76)を介護して27年になります。実に、結婚生活の半分以上が車椅子での闘病生活。それでも日々の生活の中に、楽しみを見つけ、きょうを生きる夫婦の姿をつづっています。

連載「ガラスの天井」第4部

くらしナビ面 25日（水）から計4回

老若男女それぞれに活躍を求める「一億総活躍社会」。しかし、女性たちの雇用・労働条件は不利なもので、実家や夫の扶養なしに自立しようとする、多くの人が困難に陥ります。女性は生涯にわたって男性より貧困率が高くなる背景に、社会の構造的問題があります。自立して人生を主体的に生きる難しさを、さまざまな境遇の女性たちの姿から浮き彫りにします。



衣・スマートカジュアルとは

くらしナビ面 24日（火）



パーティーやホテルなど、ドレスアップをして出かけることの増える年末年始が近づいてきました。最近「スマートカジュアル」という耳慣れないドレスコードがあるそうです。「ドレスアップした装いというよりも、カジュアル（普段着）に少し気を使った装い」だそうです。普段着とは違う「エレガント」を意識した装いのさじ加減を専門家に教えてもらいました。

ストップ、地球温暖化！

COP21に望みを託して

オピニオン面 [論点] 27日（金）

テロリストによって血に染められたパリ。深い悲しみに包まれたこの街で、30日から国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）が開催されます。地球温暖化にどう取り組むのか。京都議定書に替わる新たな枠組みづくりを目指します。温室効果ガスの排出量をめぐり先進国、途上国の対立が激しくなるなか、温暖化対策は喫緊の課題です。海水の上昇で国土が水没の危機に直面するギリバスの駐日大使ら関係国のキーパーソンたちを直撃します。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

震災後の東北論

朝刊文化面 28日（土）



批評家の若松英輔さんが各界の識者で行う対談「理想のかたち」のゲストは、東北の稲作史が専門の山内明美・大正大特任准教授です。山内さんは宮城県南三陸町出身で、震災後の東北論を当事者として担う識者の一人。若松さんの問いかけに答えて、山内さんが東日本大震災の津波被害と自身の思い、東北史とは何か、方言と標準語の落差などを縦横に語ります。

小学生新聞

小学生新聞 来週の
"売り物、記事はこれ！"

和食がユネスコの無形文化遺産に登録されてからもうすぐ2年。23日からは「伝えよう和食」企画がスタート。23日（月）は京都市の小学校での取り組み、24日（火）は、大学にも「和食」学部・学科のうごきがあることやその講座紹介。25日（水）は小学生にもかんたんのできる和食メニューを披露します。26日（木）の図解なるほどは、毎小秋のおすすめクラシック特集、27日（金）は毎小コラージュ川柳の発表、28日（土）は人気の編集長コラムの予定です。



お楽しみに！